

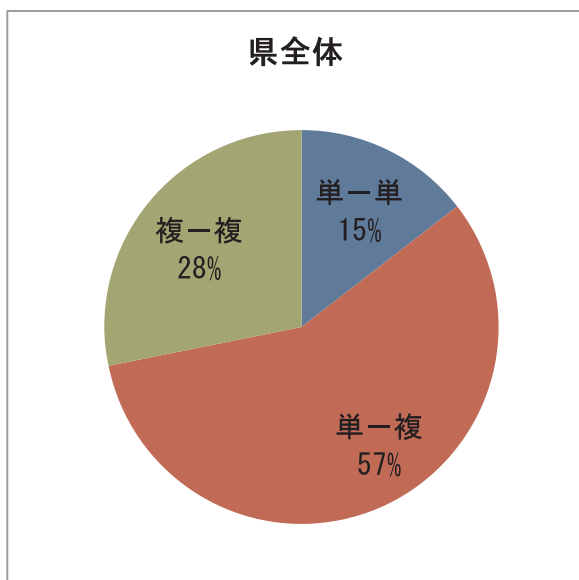
3 連携の規模別にみる県内の現状

【連携の規模】

中学校区を1つのまとまりとみた場合、①1つの中学校に1つの小学校から進学する、②1つの中学校に複数の小学校から進学する、③複数の中学校に複数の小学校から分かれて進学する、の3つに大きく分けることができる。これらのまとまりを便宜上、①単一単連携（1中学校に1小学校）、②単一複連携（1中学校に複数の小学校）、③複一複連携（複数の中学校に複数の小学校）と定義して考える。

また、連携する学校数の多い中学校区を「連携の規模が大きい」と表現する。

※単位は中学校区数	単一単	単一複	複一複
県全体	16 中学校区	63 中学校区	31 中学校区
村山地区	5 中学校区	28 中学校区	13 中学校区
最上地区	4 中学校区	6 中学校区	4 中学校区
置賜地区	5 中学校区	13 中学校区	7 中学校区
庄内地区	2 中学校区	16 中学校区	7 中学校区

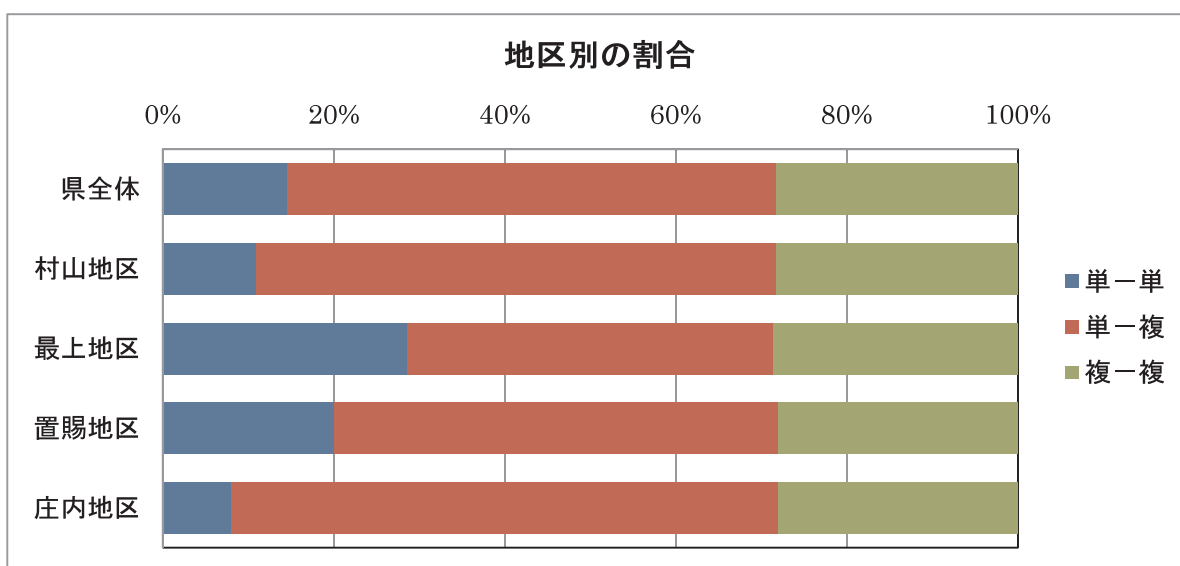


県全体をみると「単一複連携」が約6割程度、「複一複連携」は約3割程度である。

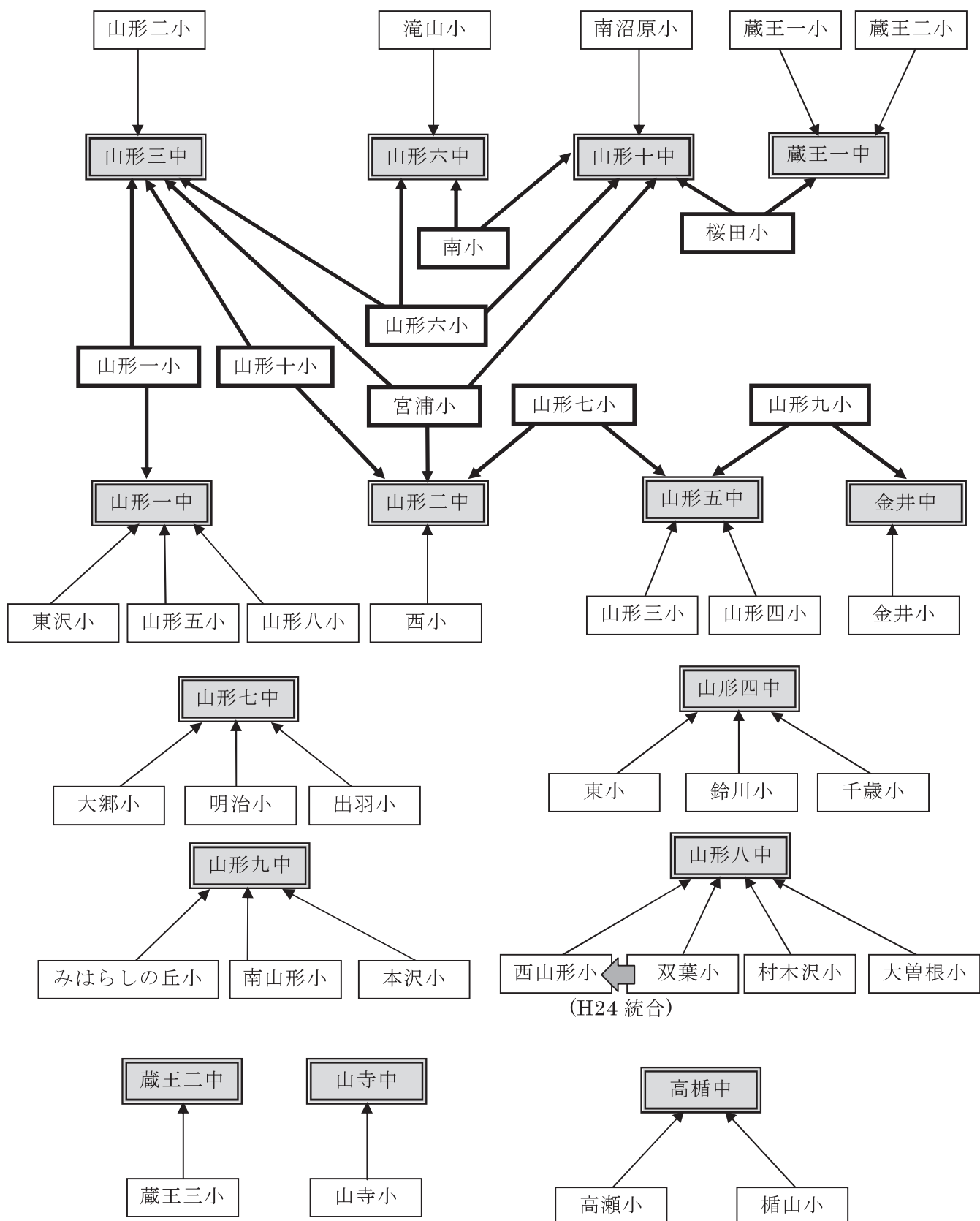
地区別にみると置賜、最上地区は「単一単連携」が約3割程度ある。その背景には市町村に1つの中学校だけ存在するという中学校区が多いことがあげられる。

どの地区も「複一複連携」の割合は2割を超え同じような割合ではあるが、山形市、天童市、米沢市、鶴岡市、酒田市などは同じ「複一複連携」でも、他の中学校区より複雑である。

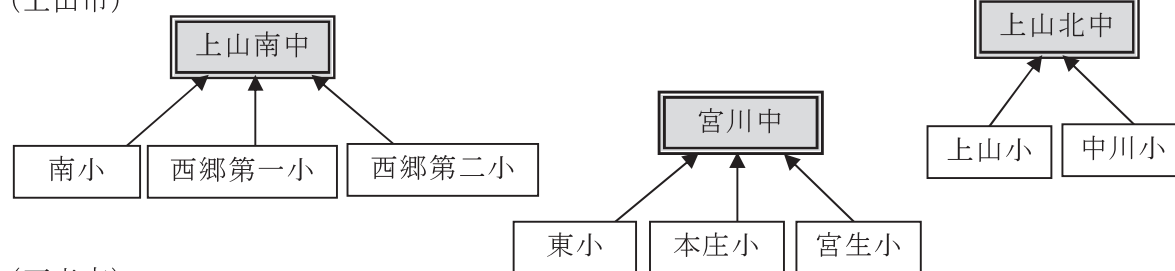
この「複一複連携」が複雑であればあるほど、規模的にも時間的にも、小中連携の取組が難しくなる傾向がみられる。



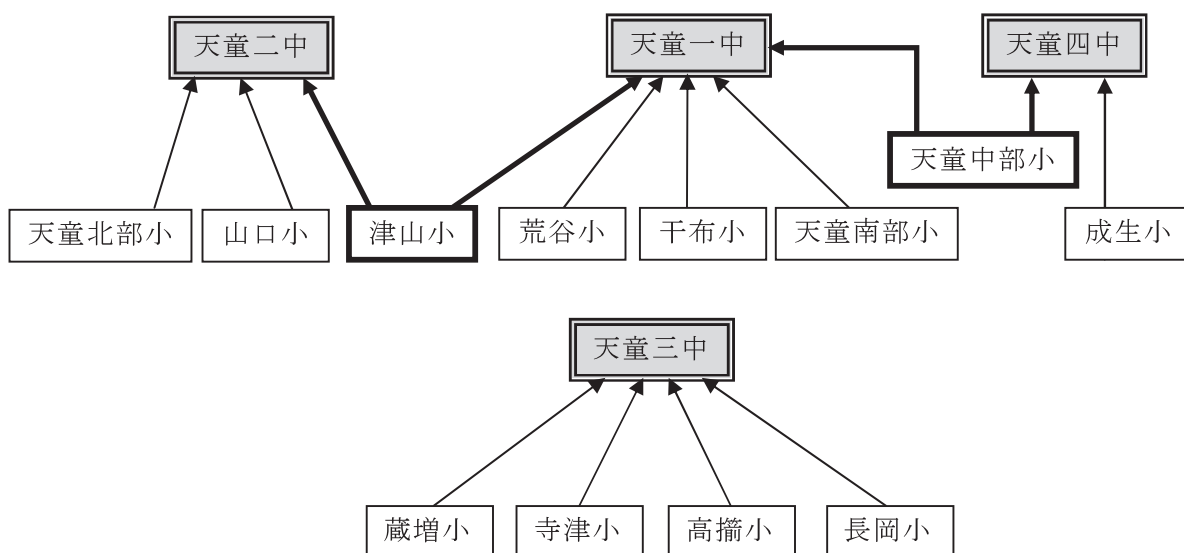
【村山地区】
(山形市)



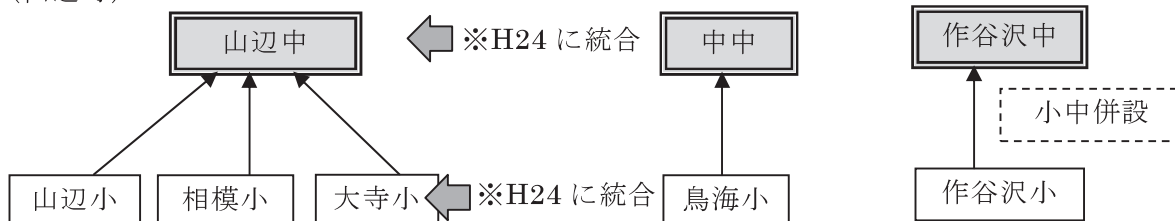
(上山市)



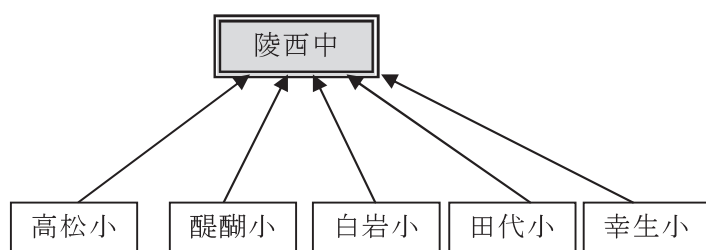
(天童市)



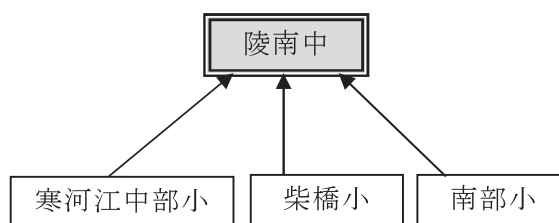
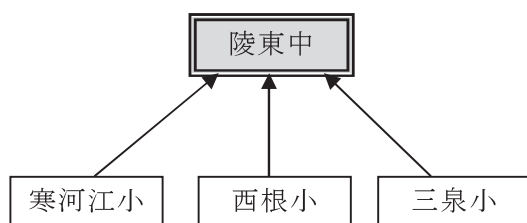
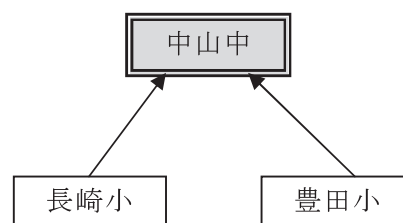
(山辺町)



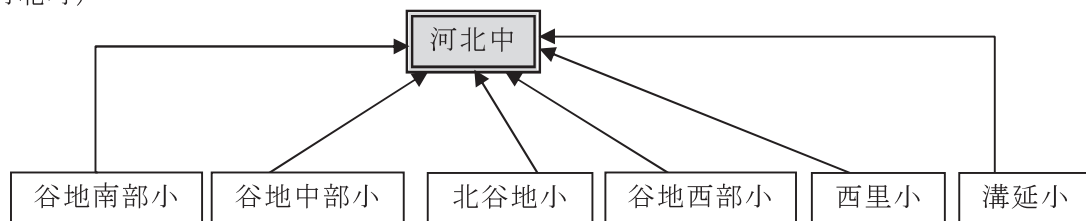
(寒河江市)



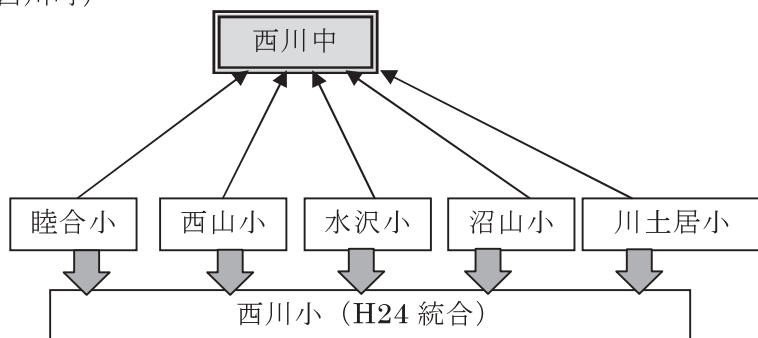
(中山町)



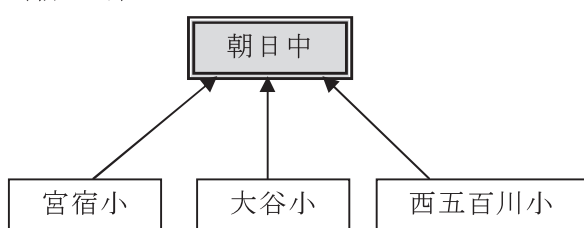
(河北町)



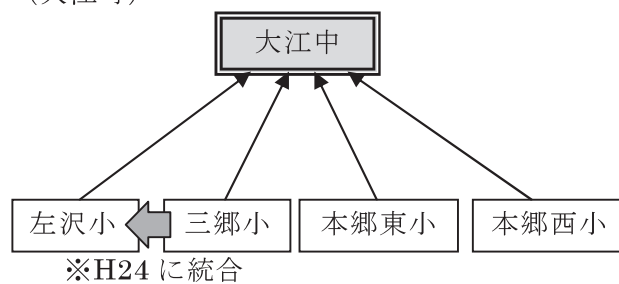
(西川町)



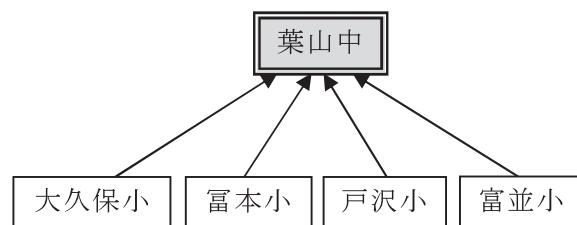
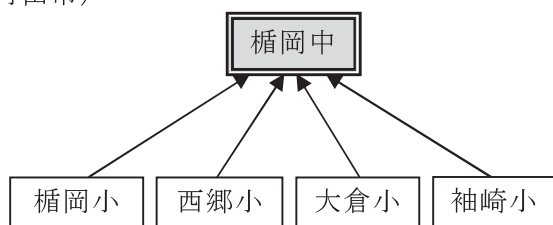
(朝日町)



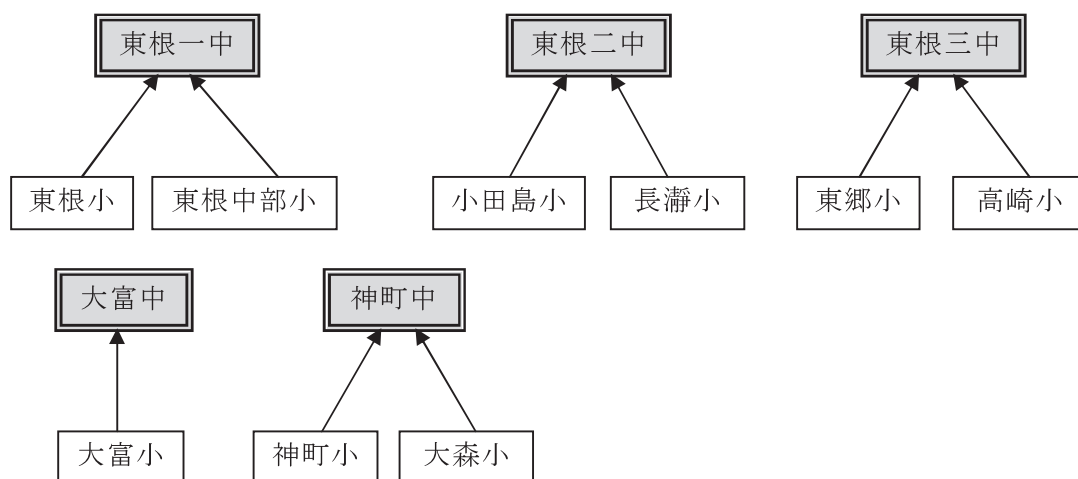
(大江町)



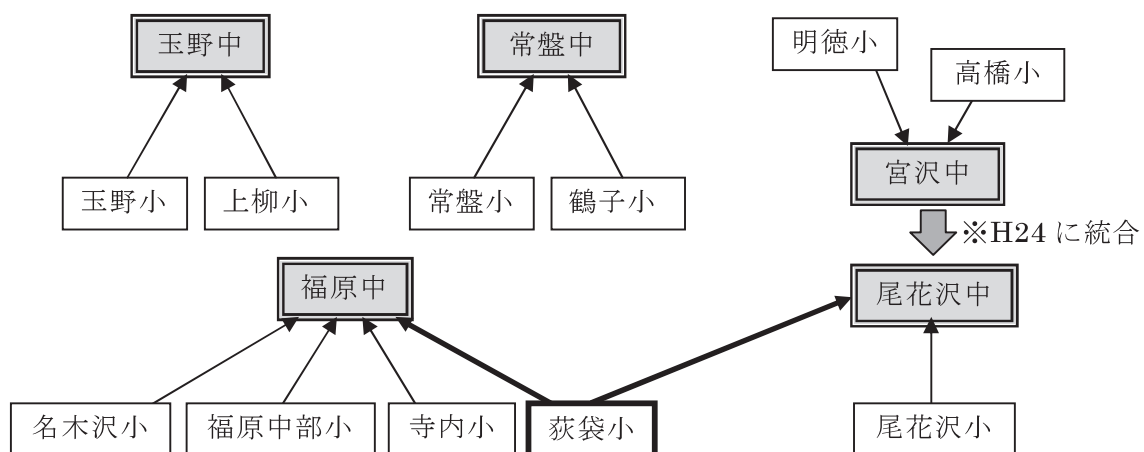
(村山市)



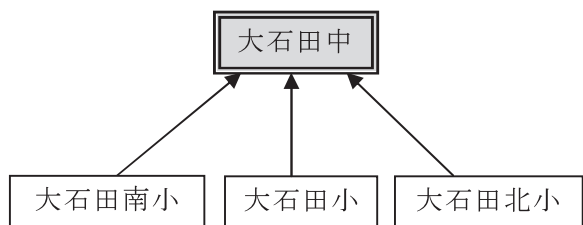
(東根市)



(尾花沢市)

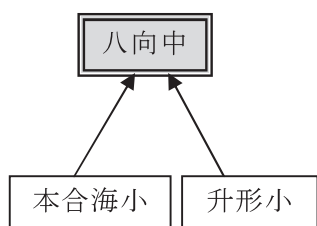
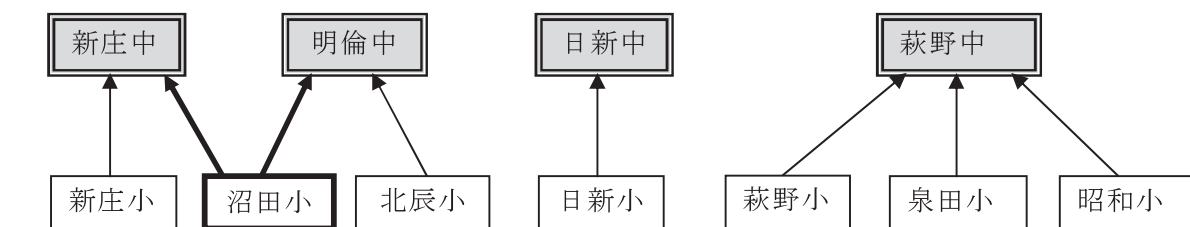


(大石田町)

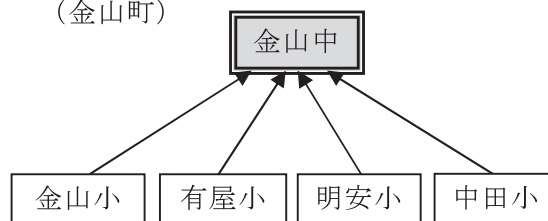


【最上地区】

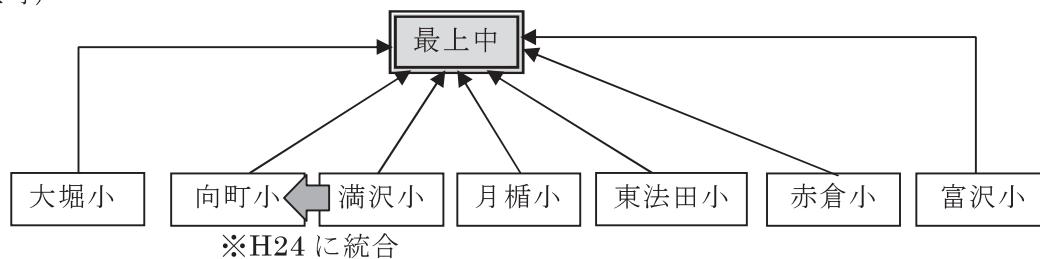
(新庄市)



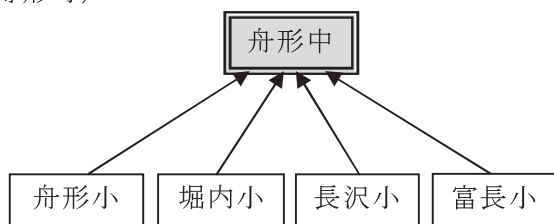
(金山町)



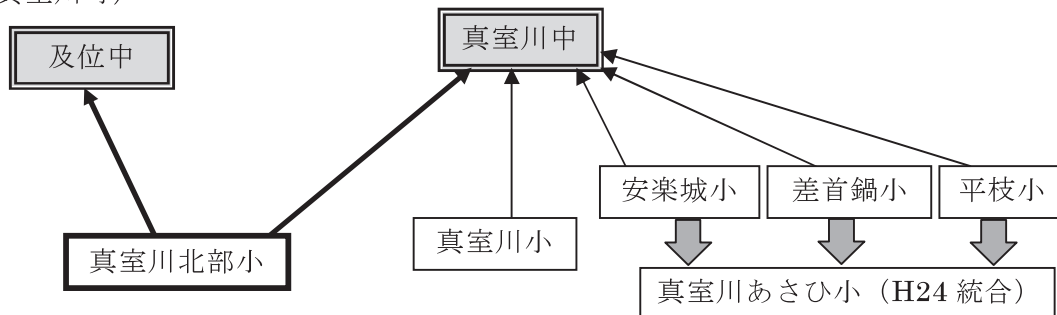
(最上町)



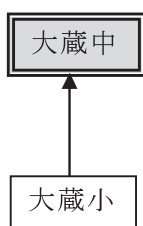
(舟形町)



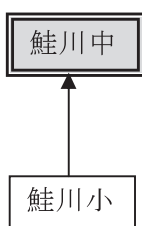
(真室川町)



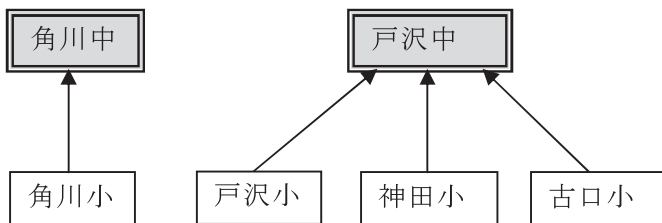
(大蔵村)



(鮭川村)

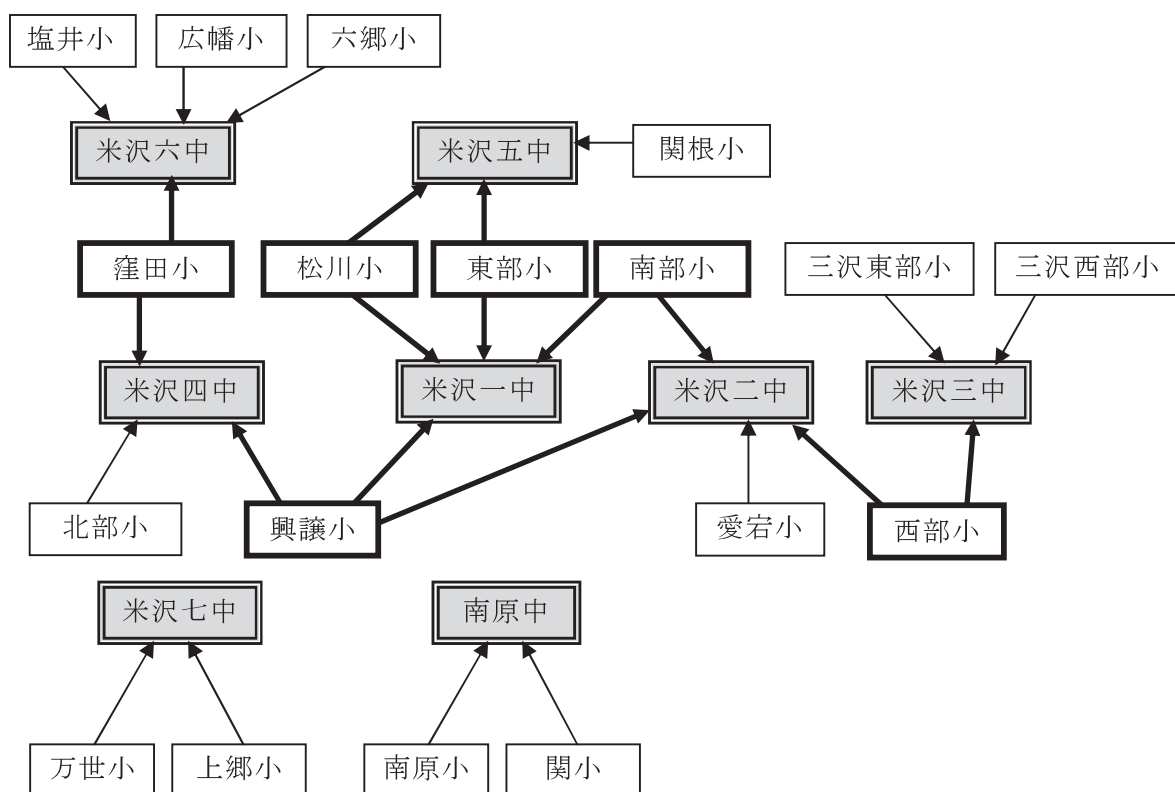


(戸沢村)

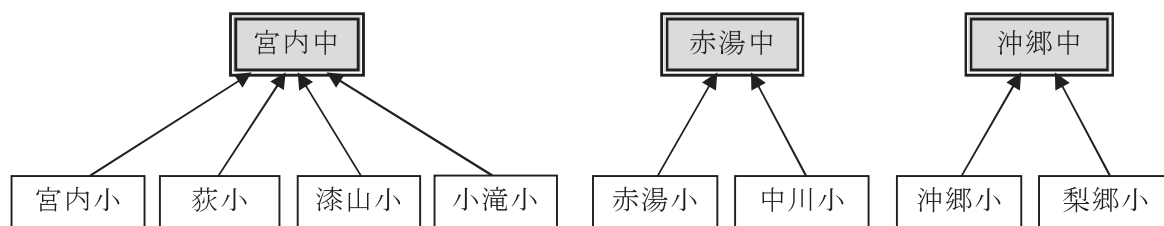


【置賜地区】

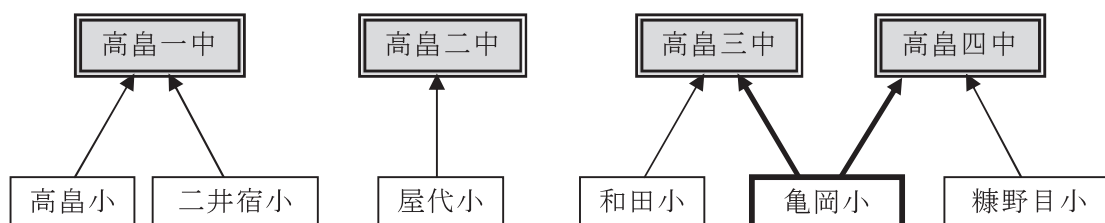
(米沢市)



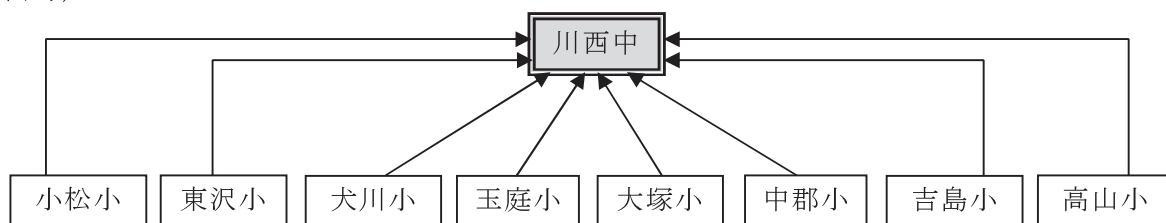
(南陽市)



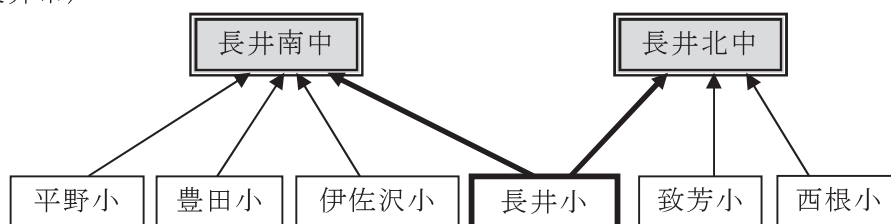
(高島町)



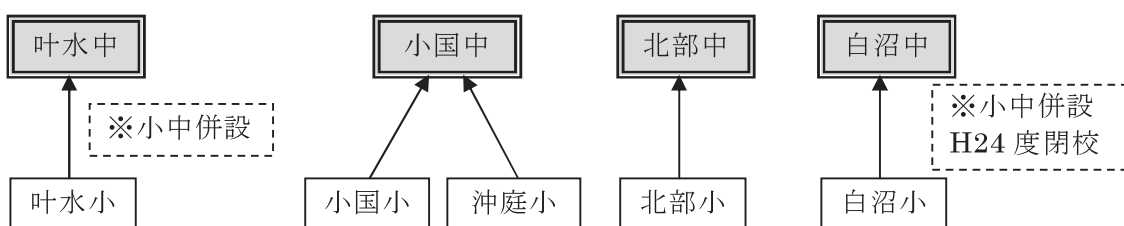
(川西町)



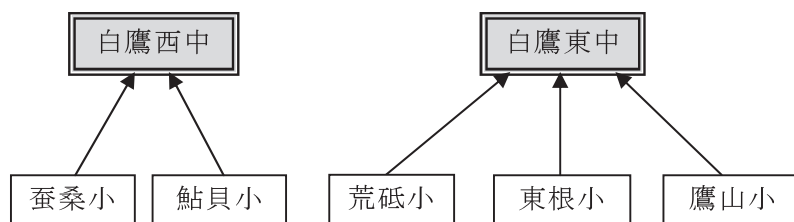
(長井市)



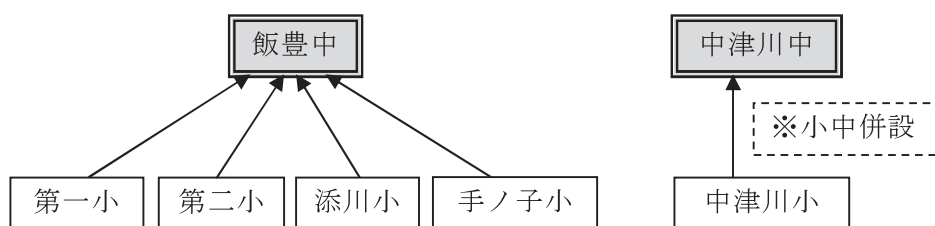
(小国町)



(白鷹町)

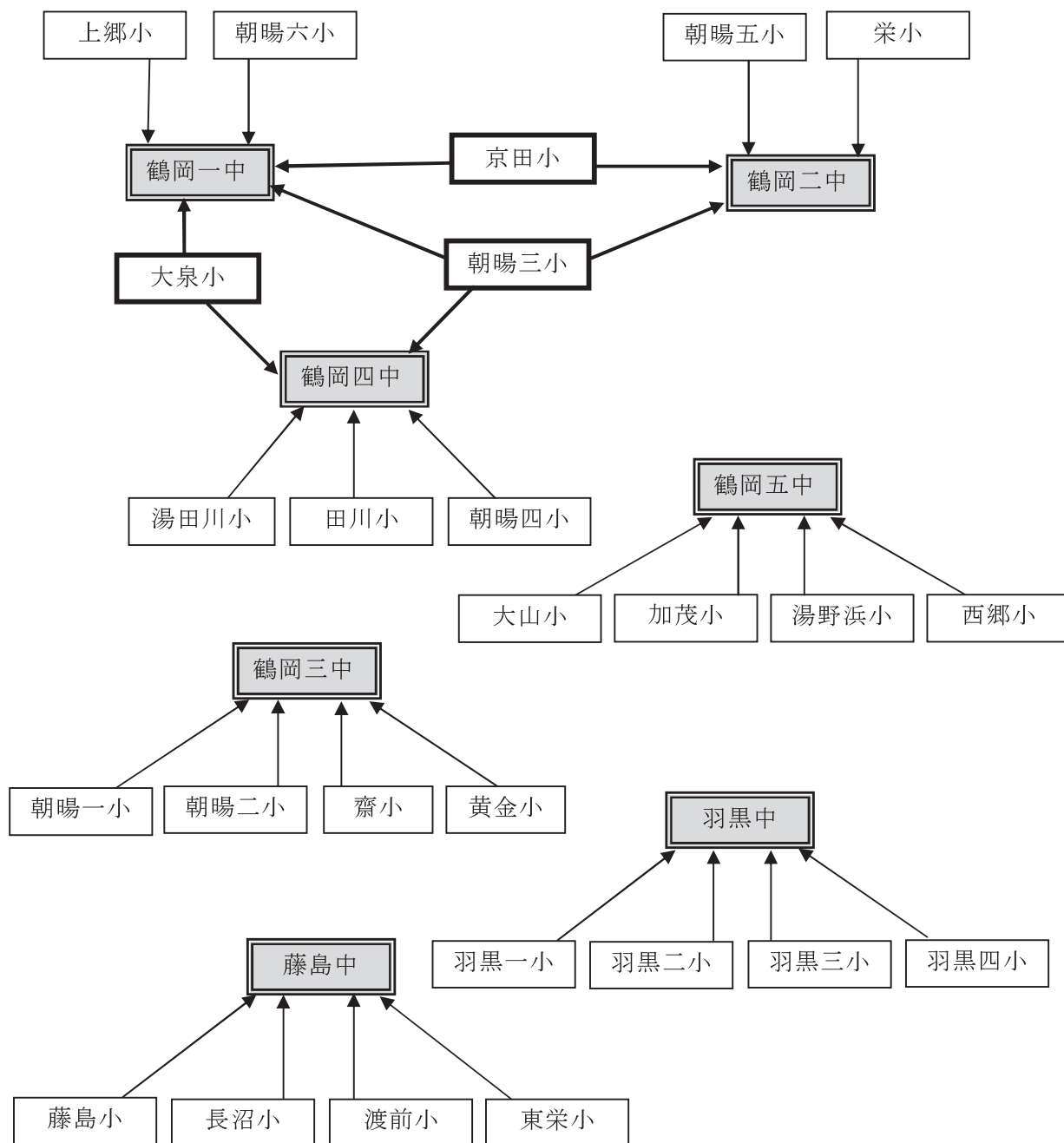


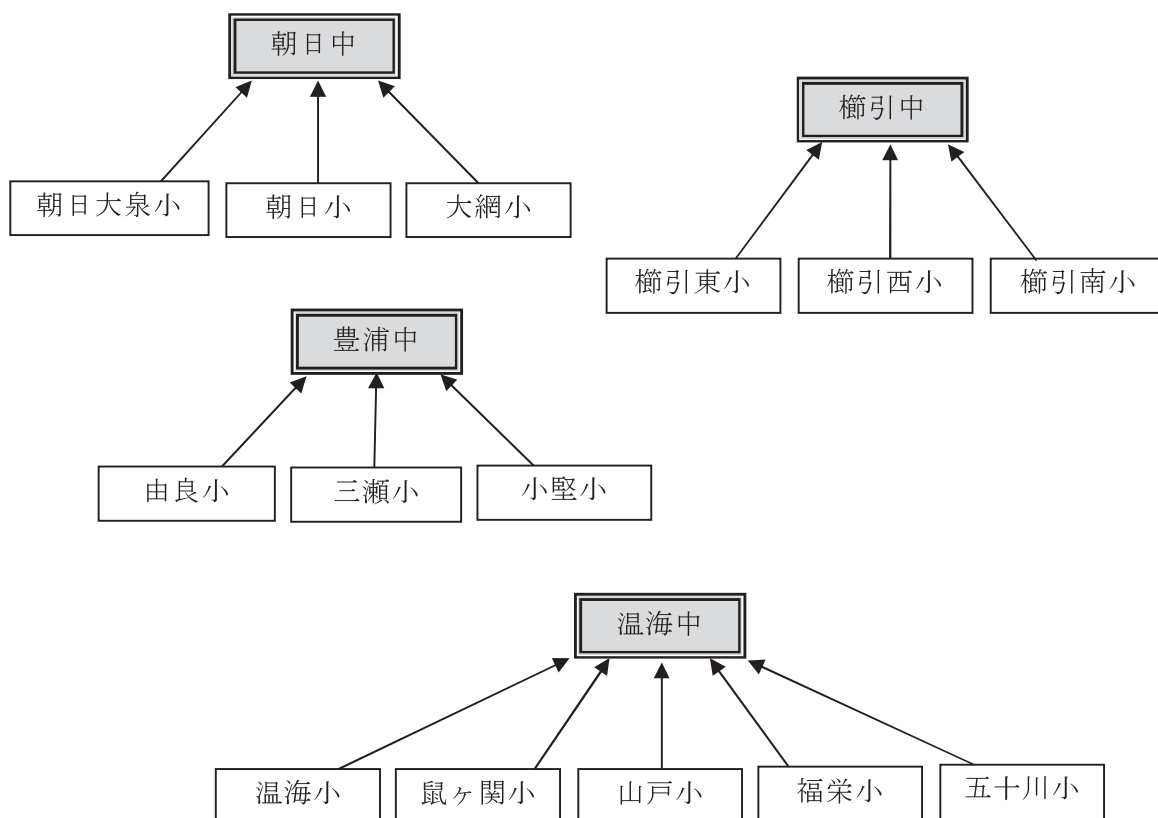
(飯豊町)



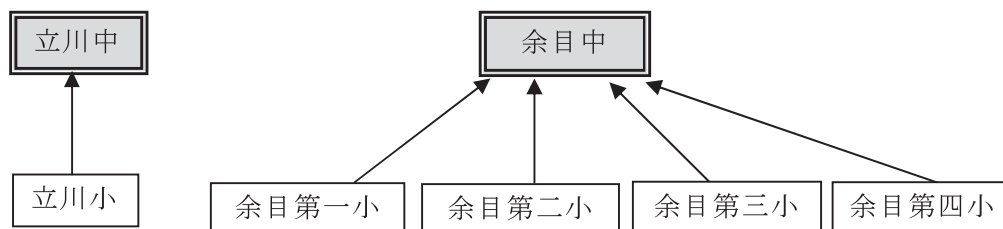
【庄内地区】

(鶴岡市)

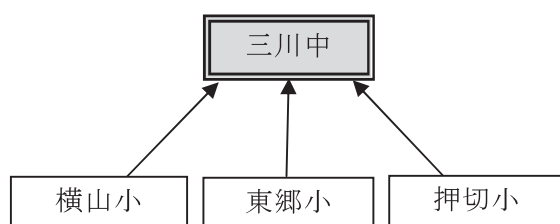




(庄内町)



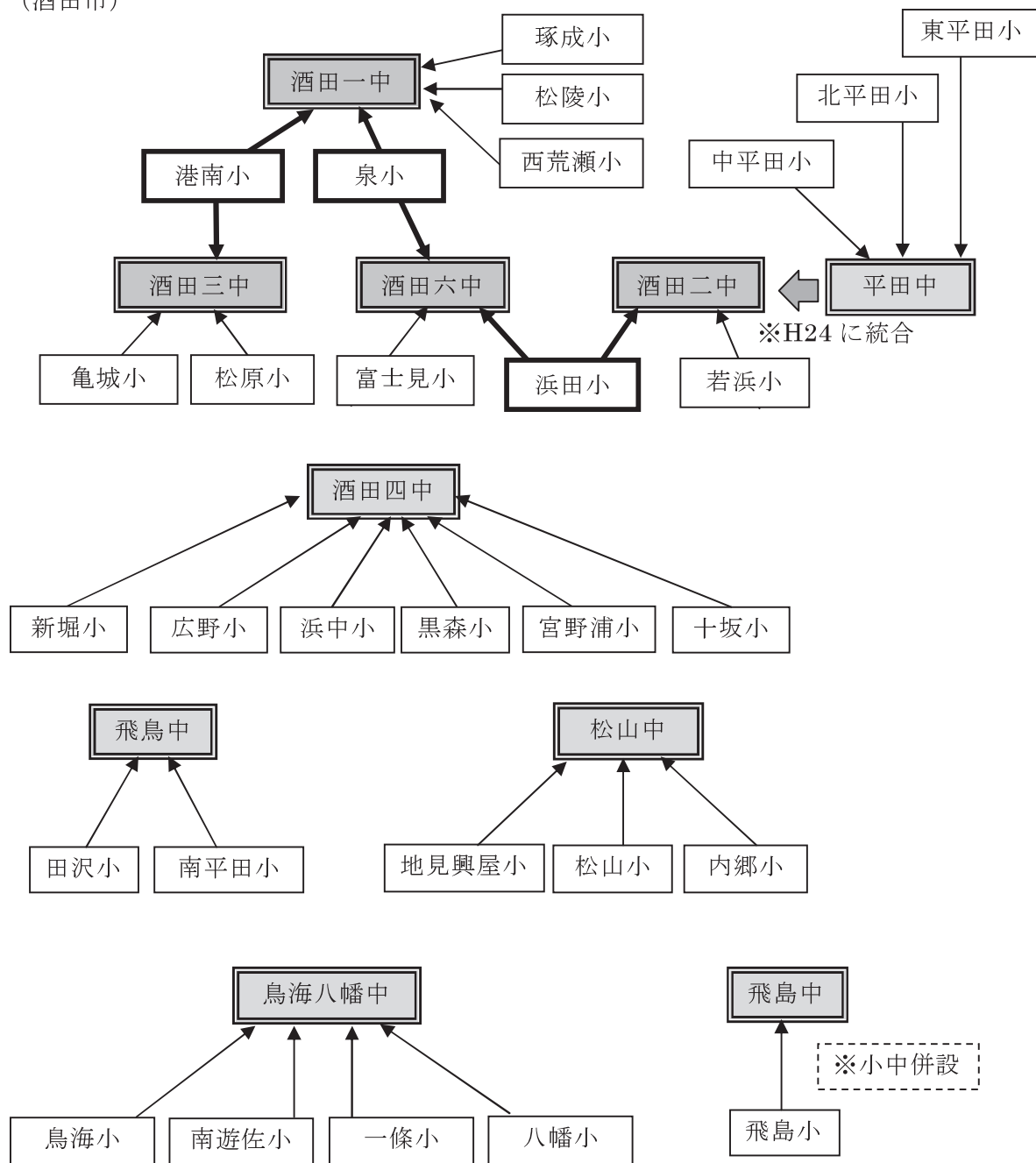
(三川町)



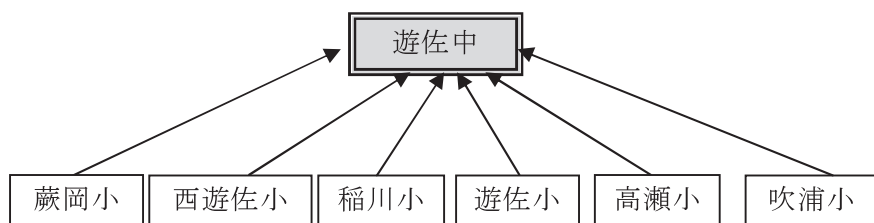
(連携相関図について)

- ・連携相関図は調査アンケートの基礎データをもとに作成
- ・学区外通学等は除く

(酒田市)



(遊佐町)



第3章 アンケートの分析（現状と課題）

第2章において、児童生徒の実態に応じて、多くの中学校区で様々な小中連携の取組が行われていることがわかった。また、各学校がそれらの取組に一定の評価をしつつ、「さらによりよいものをめざしていきたい。」という強い思いをもっていることから、小中連携による児童生徒への指導が有効であることに改めて気付かされた。

各学校から回答いただいたアンケートを分析したところ、取組内容については、「まなび」「そだち」「そしき」という視点で、また取組方法については、「共有」「交流」「一貫」という視点で分類することができた。（それぞれの分類については後述。）これらは、アンケートから読み取れる範囲で分類し、1つの取組に内容や方法が複数含まれる場合は、それぞれ分けて集計するなどして、回答の趣旨から大きく離れないようにした。

1 特色ある小中連携の取組内容の分類

アンケート質問5「特色ある（主な）小中連携の取組」の回答として、紹介いただいた具体的な取組の名称や内容を「学習指導」「生徒指導」「保健安全指導」「進路指導」「その他」に分類した結果は、**図1**のとおりである。

それらをもとに、児童生徒の「まなび」に関する取組、「そだち」に関する取組、「その他」の取組と、大きく3つに分類した。

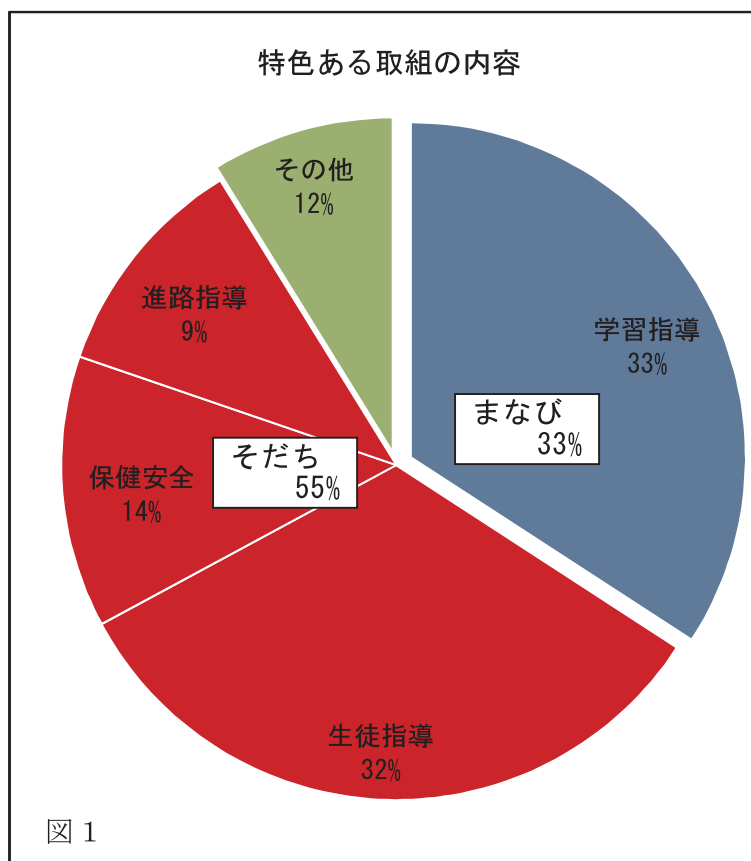
（1）「まなび」に関する取組

- 小中連携の特色ある取組として「まなび」に関する内容が、全体の1/3以上を占め、中学校教員による小学6年生への出前授業が県内各地で行われていることがわかった。

（2）「そだち」に関する取組

- 生徒指導に関することや保健安全指導に関することを合わせた児童生徒の「そだち」

に関する内容が全体の55%となり、小中連携の取組の半数を超えている。これらには、小学6年生による中学校への1日体験入学や小中合同のあいさつ運動、養護教諭部会での情報交換等が含まれる。



2 特色ある小中連携の取組方法の分類

アンケート質問5の「特色ある（主な）小中連携の取組」の回答をもとに、次のような視点でその実施方法を「共有」「交流」「一貫」の3つに分類した。

(1)「共有」を主とした取組

- 児童生徒の情報の共有や、学習指導における児童生徒の実態や指導方法の共通理解をめざした、教職員間や保護者、地域における取組。
- 小中連絡会等の組織を活用した児童生徒の情報交換や、授業研究会への参加等による学校間での共有の他、地域懇談会のような教職員と保護者、地域による情報交換等。

(2)「交流」を主とした取組

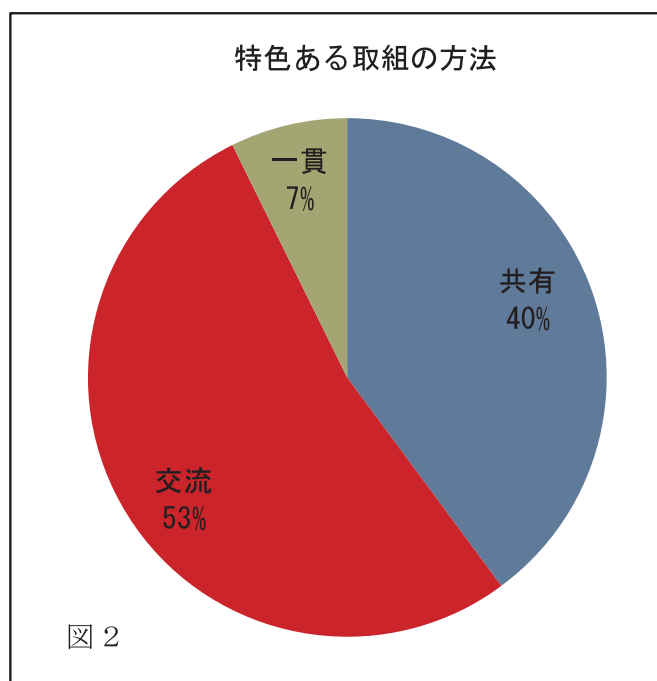
- 児童生徒による協働や、教師による児童生徒への指導等、児童生徒を介した直接的なかわりをもった取組。
- 中学校教師による出前授業のような教職員が直接児童に指導する取組や、小学生と中学生が合同で取り組むボランティア活動やあいさつ運動等、子ども同士の交流を含んだ取組等。
- ※ いずれの場合も活動を仕組む上で、小中学校の教職員による事前の打ち合わせ等を要する取組であるため、「共有」の目的を経て実践されている。

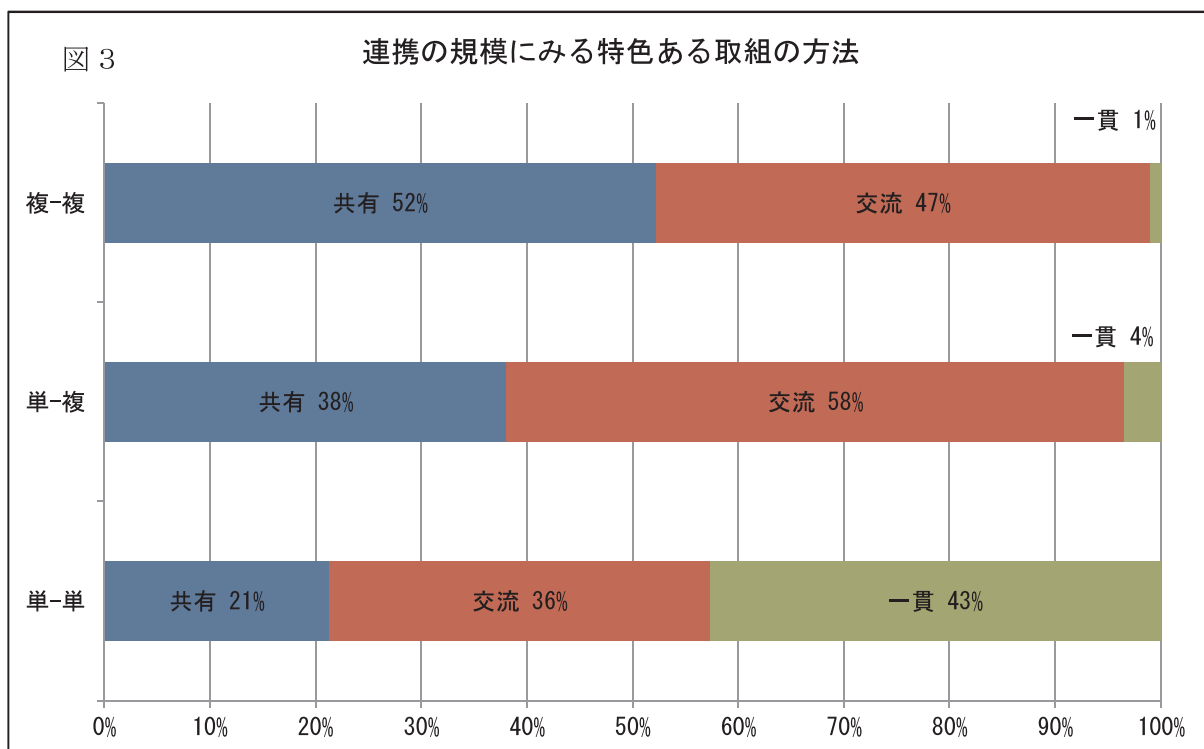
(3)「一貫」を主とした取組

- 発達段階を見通して、地域の子どもを小中学校双方が乗り合いで育てることをめざした取組。
- 小中学校の協働によって教育目標や指導内容が、小中学校双方のカリキュラムに位置付けられている教育活動や、PDCAサイクルを生かした学校行事や総合的な学習の時間における指導計画等。

(4) 小中連携の取組方法による分類結果

- アンケートの回答を「共有」「交流」「一貫」の3つの方法にあてはめると、**図2**のような結果となった。
- 小中連携の特色ある取組は、「交流」の形が半数以上を占めている。以前から行われてきた新入生オリエンテーションにおける小学6年生への指導の他、中学校教員による出前授業が活発に行われている。
- 特色ある取組の4割は、児童生徒に関する情報の「共有」をめざした取組となっているのがわかる。**図3**から、連携の規模が大きくなればなるほど、「共有」のための取組が大きな割合を占めていることがわかる。
- 「一貫」に分類される取組は、小中併設校や校地が隣接しているなど、連携の規模や学校の規模、取組にかかる時間等と関連していると思われる。

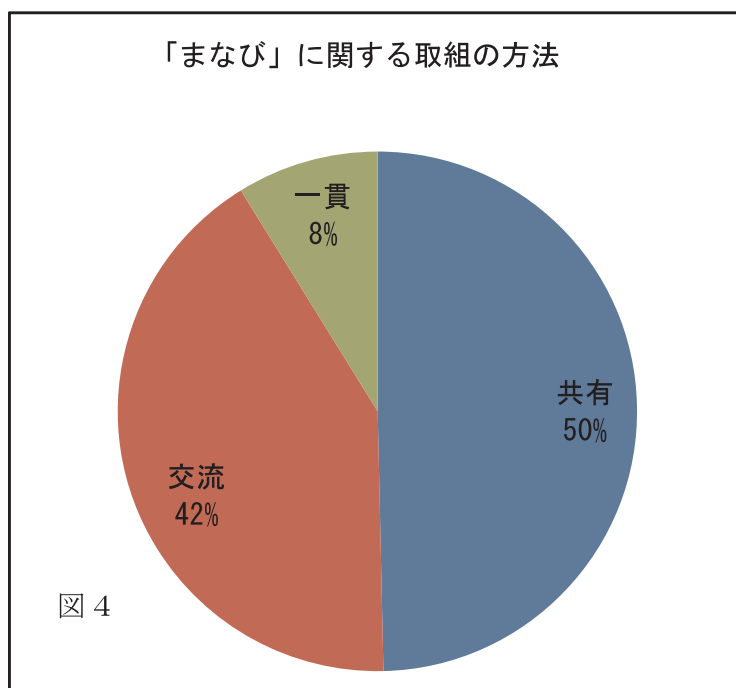




3 取組の内容と方法との関連

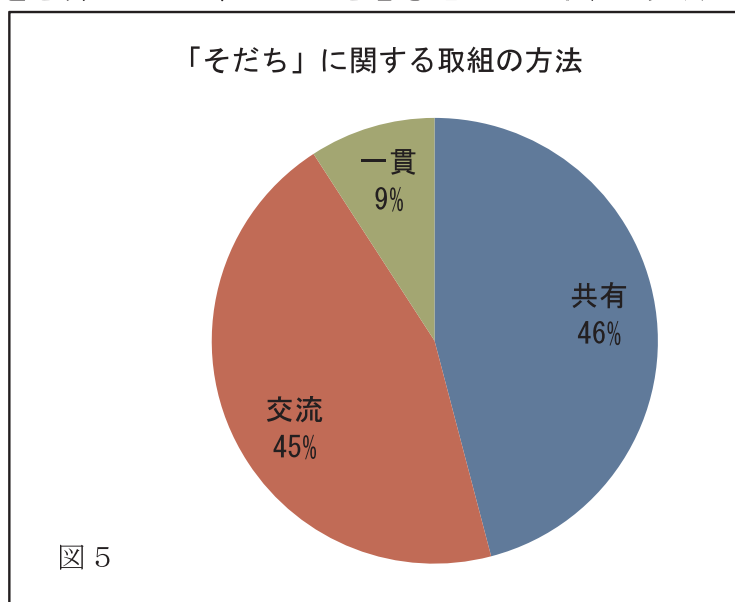
(1) 「まなび」に関する取組でめざすもの

- 図 4 から、「まなび」に関する取組の半数が、「共有」をめざした取組となっている。これには、中学校区の全教職員が所属する組織で企画される公開研究会への参加や授業参観が含まれている。
- 「まなび」に関する取組の 4 割以上は、「交流」をめざした取組となっている。これには、出前授業や特別支援学級在籍児童生徒間の交流が含まれている。
- 小学校における外国語活動の実施に伴い、中学校の英語教員や A L T の派遣が多くなっており、継続的に取り組んでいるところもみられる。
- 小学校の統廃合に伴い、小中学校合同のカリキュラム作成に取り組んでいる中学校区があり、市町村教育委員会としての取組で「一貫」に向かっているところもある。
- 小中学校乗り合いで、児童生徒につけたい力や学習に係る約束を明らかにして、発達段階に応じて小中が一貫した指導を行っている取組が 8 % ある。



(2) 「そだち」に関する取組でめざすもの

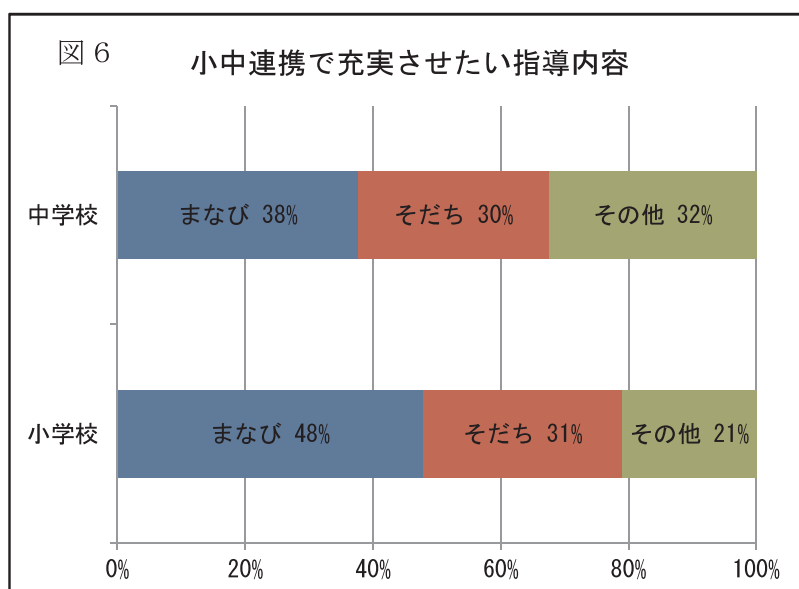
- 図5から、児童生徒の「そだち」に関する取組は、「交流」「一貫」の形で行われているものが過半数に上り、教師間の情報交換に加えて、子ども同士の交流が盛んに行われていることがわかる。
- 既存の養護教諭同士のネットワークを生かして、中学校区の児童生徒の健康面に関する情報の共有から課題を明らかにし、P T Aを巻き込んだ取組に発展させているところがある。
- 教職員の取組だけでなく、中学校区のP T A役員で実行委員会を結成して、各小学校の6年生の交流を実施し、小学校同士の連携を強めているところがある。
- 東日本大震災を契機に、小中各学校にあった非常時の安全確保の手立てを共有し束ねるといった、安全面での取組を実施しているところがある。



4 小中連携で充実させたい取組内容と方法

(1) 校種別に見る充実させたい取組内容

- アンケート質問7「今後新たに必要である（または充実させていく必要がある）と考えている小中連携の取組の重点」についての回答を、「まなび」「そだち」「その他」の3つに分類し、図6のように校種別にまとめた。
- 小中学校ともに、「まなび」に関する取組を最も充実させたいと考えているが、割合では小中学校に10%以上の差がある。
- 「そだち」に関する取組については、小中学校ともに、3割以上が「充実させたい」と回答している。



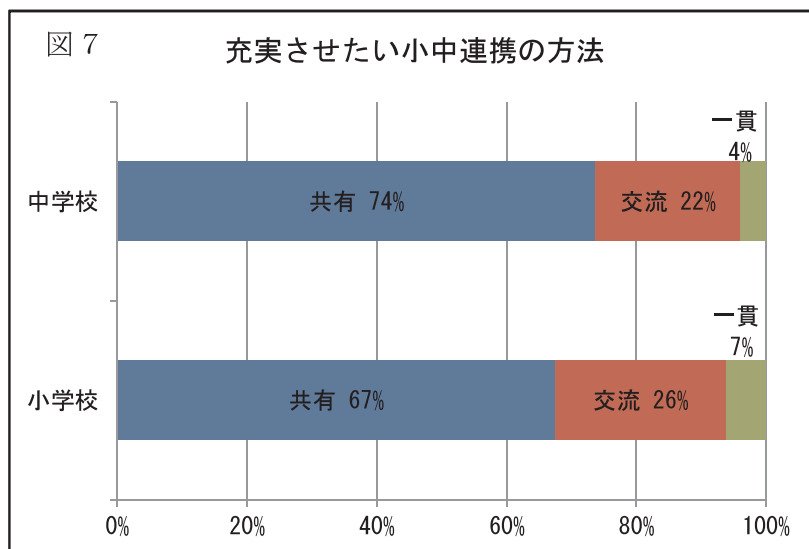
(2) 校種別に見る充実させたい取組方法

- 図7から、小中学校は、ともに充実させたい取組の方向性を「共有」に置いていることがわかる。

- 中1ギャップといわれる中学校への不適応を解消するために、小学校が中学校に子どもの情報を伝達したいという思いと中学校が小学校からの情報をもとに今後の指導を考えていこうとする思いが合致していることから、「共有」をめざす取組の充実を希望しているとともに、その継続と発展をめざしていると考えられる。

(3) 小中学校の意識

- 図6からわかるとおり、小学校の充実させたい小中連携の取組の重点の約半数近くが「まなび」に関することであるのに対し、中学校が小学校との連携で充実させていきたい内容は、分類上およそ3つの項目とも約3割になっており、差異がみられない。
- アンケート質問7や質問8の記述内容から、小学校では、外国語活動をはじめ、音楽、美術、体育等の教科の専門性を生かした指導を児童にしていきたいという思いや期待をもっている。そのため、図7からわかるとおり、「交流」「一貫」の取組を求める割合が3割を超えていると考えられる。
- 中学校では、特別支援教育に関することや生徒の家庭生活に関することなど、生徒の実態によって求める連携の取組が異なり、小学校より多岐にわたっている。小学校がもっている情報を共有し、指導に生かすという視点で小中連携をとらえる割合が高いと考えられる。



5 考察のまとめ

(1) 連携の視点の移行

- 図1と図6から、小中連携の今後の視点が、「そだち」に関するものから「まなび」に関するものへ移行しているように感じられる。児童生徒の学力向上をめざす上で、小中学校双方による分析と手立てを考え合うこと、つまり情報や考え方を共有することで課題解決を図ろうとしていると思われる。

(2) 既存の取組の充実と発展

- これまでの小中連携による取組の成果をふまえ、教育課程上の位置付けと実施の方法を工夫しながら、取組の更なる充実と発展をめざすために必要な視点を、小中学校双方が模索しているように感じられる。

(3) 「そしき」という小中連携の取組の視点

- アンケート質問3や質問4の記述内容から、効果的で、円滑な小中連携をめざす上で大きな働きをしているのが、連携組織の確立であることがわかった。「まなび」「そだち」の取組を動かす「そしき」という視点でも小中連携をとらえていく必要がある。

第4章 実践事例の紹介

県内の特色ある小中連携の実践を「まなび」「そだち」「そしき」に分類して紹介する。

まなび

- ・酒田市立第四中学校区「外国語活動出前授業の取組」…………… 2 8
- ・庄内町立立川中学校区「立川スタンダードの取組」…………… 3 2
- ・新庄市立明倫中学校区「小中9年間を見据えたカリキュラムの創造」…………… 3 6
- ・新庄市立八向中学校区「小中9年間を見通したキャリア教育の取組」…………… 4 0
- ・山形市立高楯中学校区「特別支援合同音楽療法」…………… 4 4
- ・高島町立第三中学校区「家庭学習の手引き、食育、全体交流等による連携」… 4 5

そだち

- ・村山市立葉山中学校区「葉山中学校区子ども交流事業」…………… 4 7
- ・鶴岡市立鶴岡第一中学校区 朝陽第三小学校「三陽しぐさの取組」…………… 5 1
- ・新庄市立明倫中学校区「児童生徒間交流」…………… 5 4
- ・河北町立河北中学校区「河北中N A V I」…………… 5 6
- ・新庄市立日新中学校区「生活リズム調査と合同リーダー研修会」…………… 5 8
- ・寒河江市立陵南中学校区「みんなの5 (G0) 5 (G0) 目標」…………… 6 0
- ・山形市立第十中学校区「養護教諭同士の連携と特別支援教育における連携」… 6 2
- ・最上町立最上中学校区「最上こどもサミット」…………… 6 4
- ・山辺町立作谷沢小・中学校「小規模小中併設校の取組」…………… 6 6
- ・長井市立長井北・長井南中学校区「中1ギャップの未然防止に向けた取組」… 6 9

そしき

- ・新庄市教育委員会「新庄市における小中一貫教育の推進」…………… 7 1
- ・新庄市立新庄中学校区「たくましく生き抜く力を育む小中一貫教育の推進」… 7 3
- ・高島町立第一中学校区「緊急時の児童生徒の安全確保のための体制づくり」… 7 6
- ・鶴岡市立豊浦中学校区「豊浦地区ブロック小中連携の組織と事業」…………… 8 0
- ・山形市立第八中学校区「西山会の取組」…………… 8 2
- ・中山町立中山中学校区「校長会・教頭会を核にした小中連携の取組」…………… 8 4

【実践事例に使われている用語や記号について】

○連携の取組方法の分類について

共 有

交 流

一 貫

※実践事例が該当するものに色がついている。

○連携の規模について

＜単－単連携＞… 1つの中学校に1つの小学校から進学する

＜単－複連携＞… 1つの中学校に複数の小学校から進学する

＜複－複連携＞… 複数の中学校に複数の小学校から進学する（学区が交差する）

○学校基礎データについて

生徒数、学級数については「山形県学校名鑑」（H24版）のデータを参照

酒田市立第四中学校区

「外国語活動出前授業の取組」

～川南地区小中連携のさらなる推進をめざして～

■ はじめに

平成24年度に創立55周年を迎えた酒田市立第四中学校は、酒田市の川南地区唯一の中学校であり、規模の異なる6つの小学校から進学してくる。庄内平野を一望し、最上川や京田川が流れる自然豊かな環境の中、以前から川南地区小中連携を進めてきた。

小学校での教科の専門性の活用と、中学校の生徒理解に役立てたいという思いが合致したため、6月に、川南地区小中一貫教育推進会議の外国語活動・英語担当者情報交換会を中学校会場で開催し、前年度から出前授業を年間3回実施することを確認した。

■ 出前授業を支える中学校の体制

- 中学校英語教諭5名一人一人に通年の担当小学校がある。
- 外国語活動の授業における中学校教諭の役割を右のように段階的に増やしていく授業構成を計画し、子どもたちの英語に対する興味・関心を高め、中学校での学習への不安を取り除けるように配慮している。

ここに注目！

- * 1学期：外国語活動TT
(小：メイン・指導案作成、中：サブ)
- * 2学期：外国語活動TT
(中：メイン、小：サブ・指導案作成)
- * 3学期：外国語活動TT
(中：メイン・指導案作成、小：サブ)

■ 出前授業の様子

○ 授業を実施するまで

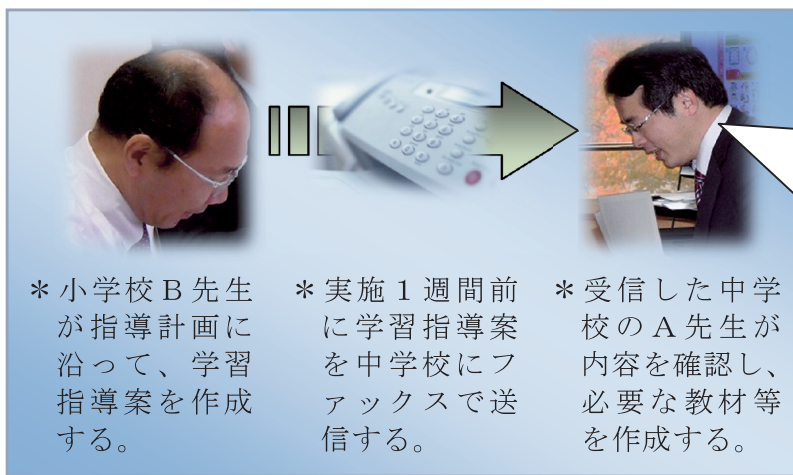
- ・ 6つの小学校の外国語連携担当である教務主任が実施日を調整し、中学校と打ち合わせをする。

中学校教諭の移動時間等を考慮し、授業時間を午後に設定して、移動時間を確保し、中学校の授業に支障のないようにしている。

- ・ 中学校の英語教諭の都合を確認して、実施日を確定する。
- ・ 指導に関する打ち合わせは下記の流れで行う。(2学期の例)

氏名	用務	時刻場所
校長	庄内小中学校長研修会	13:20(いっしょ)
佐(英)	東北技家研究会	9:10(余中)
石塚	"	"
島田	小中連携外国語活動	10:40(十坂小)
石黒	"	"

ここに注目！



外国語活動の教材である『Hi, friends!』が中学校に準備されています。その他の仕事との兼ね合いを図りながら、いつでも必要な教材・教具を作成することができます。

○ 当日の学習指導案

H24.11.9(金)5校時
 浜中6年
 Lesson5 What time do you get up? ① No.1

過 程	活 動			留意点
	児 童	中学校(T1)	小学校(T2)	
1. あいさつ	Hello ~ I'm fine. And you?	Hello ~ How are you?		
2. 1~60のあいさつ	児童に1から順番に声を出して言わせる。 (一teen、ーtyのちがいに気を付けさせる。)			
3. 今何時ですか	Hi, friends! P22 Let's Listen ① 時計に針で数字を書こう。 ① It's 11:15 ② It's 10:45 ③ It's 6:22 「今何時ですか?」—「〜時〜分です。」のやりとり練習をする。 手本を見る (What time is it? — It's (今の時刻). 〈時計カードを使って〉 What time is it? — It's (カードの時刻) T1: What time is it? C: It's (カードの時刻) } 全員の確認したら1人ずつ言わせる		教科書	時計カード
4. 動作の表現に慣れる	Hi, friends! P22 Let's play! ② おはしゲーム (先生が言った動作の絵のところに おはしを置く。) ① 先生が動作の言葉を言う。 ② おはしを置く。 ③ その言葉の発音練習。 } くり返し 教科書のやりとりがスムーズになる			おはし
5. 何時に起きたか?	何時? と動作を合わせた了すね方と答え方を知る。 手本を見る (What time do you get up? — At six thirty. (T1: What time do you get up? (go to school) (go to bed) せうの寝る時刻 C: At ~. (何人の子にも丁寧に答えてもらう)			

No.2

過 程	活 動			留意点
	児 童	HRT(T1)	ALT(T2)	
	Hi, friends! P23 Activity ① 先生の日を予想してインプットしよう。 C: What time do you get up? (go to school) (go to bed) ← きのうの寝る時刻 T1: At ~. 子どもたちに予想を書かせるから、インプットする。			
6. 3リクスリ	自己評価カードを書く。			
7. 終わりのあいさつ	Thank you. — Thank you.			

○ 1 回目の出前授業との関連

- ・ 普段の外国語活動と変わらないように、2 回とも『Hi, Friends!』を使用する。
- ・ 子どもたちの抵抗感や緊張感を和らげるために、学習の流れを前回と同じにする。
- ・ 中学校教諭の指示や指導を円滑にするために、前回は使用しなかったDVDを使用する。
- ・ 2 回目の出前授業であるため、子どもたちが中学校教諭に慣れていると考え、課題文を2 つにするなど、学習活動を増やす。

○ 授業当日の様子

* 13:00 中学校を出発



* 13:20 小学校に到着

ここに
注目!

昼休みを利用して小学校への移動時間を確保しています。また、5校時目と6校時目の時間で、小学生に指導して帰校できるように、時間割を調整しています。それによって、放課後の部活動等の指導に影響が出ないように工夫しています。



* 13:23 早速の打ち合わせ